



キャンパスマスタープラン の運用について

～ 大阪大学での取り組み事例 ～

平成24(2012)年9月7日
大阪大学キャンパスデザイン室
吉岡聡司

contents

1. キャンパスマスタープラン策定の意義と
大阪大学キャンパスマスタープランの特長
2. 策定と運用のプロセスと体制
3. 派生する様々な問題への対応
4. 改訂と今後の展開



1. キャンパスマスタープラン策定の意義

- ・できるだけ広い範囲で、空間の文脈や特性に照らして計画
- ・構成員や地域住民、その他ステークホルダーの共通理解
- ・計画や予算のバックボーン
- ・さまざまな関連事象に対する、総合的改善策の考え方について、よりどころとなるもの
(交通、バリアフリー、景観、緑化、省エネ、…バランス感覚)



大阪大学 キャンパスマスタープランの考え方



キャンパスの空間資源と潜在能力



1. キャンパス環境資源と空間の潜在能力分析
2. シンボル空間や軸線など空間骨格の定義・設定
3. 広場、建物、緑地のデザインガイドラインと、デザイン原理や経験の継承
4. 学生・教職員・地域住民の参加と協働

施設マネジメントの取り組み

施設や屋外空間の戦略的な整備
適切な維持管理
継続的な点検・評価
構内の交通安全対策
基本的な教育・研究機能の確保
(狭隘化対応、耐震性能確保、バリアフリー化)



広場、建物、緑地の
デザインガイドライン

空間を演出する例



シンボル空間や軸線



バリアフリー
チェック

施設の点検・評価



学生・教職員・地域
住民の参加と協働

交通マネジメント



豊中キャンパスの全体イメージ

1. 多様な学生生活が感じられるキャンパス
2. 大阪大学の歴史を感じさせるキャンパス
3. みどり豊かなキャンパス



中山池越しに大阪大学会館と
80 周年記念広場、学生交流棟を見る



銀杏通りの
並木は豊中
景観 100 選
に選ばれて
います。



(例)キャンパスマスタープラン策定の意義 ～骨格や環境資源の強調と問題や整備余地の表現



豊中キャンパスで優先的にとりくむべき整備 (リーディングプロジェクト (LDP))

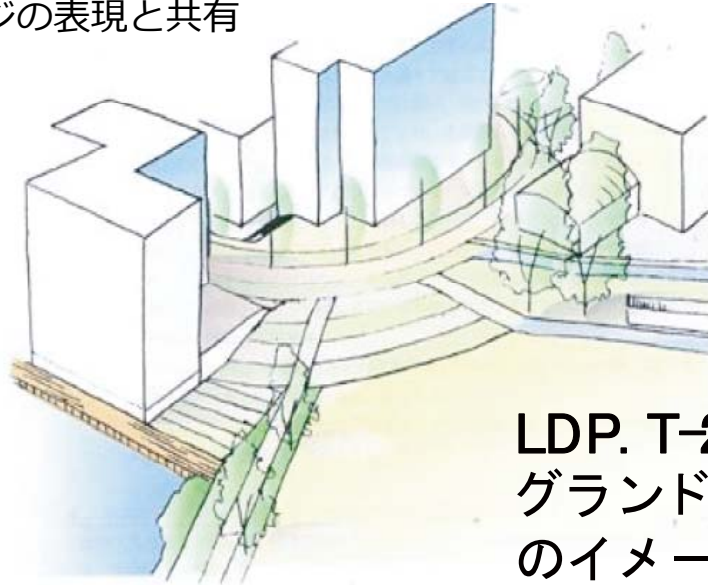
- LDP. T-1 食堂等福利施設や課外活動施設 (キャンパスライフコア) の形成・充実 (各キャンパス共通) ※
- LDP. T-2 豊中キャンパスのシンボル空間の形成
- LDP. T-3 待兼山博物館・周辺環境の整備
- LDP. T-4 柴原通り周辺の空間再編

※ 候補地は、キャンパス各所に考えられます。
民間事業者等をいかに誘致するかがカギとなります。

空間骨格や環境資源の強調と、 問題点や整備余地等の表現



(例) キャンパスマスタープラン策定の意義
～空間イメージの表現と共有



オープンスペース
ネットワークの重要な
結節点であり、
学生交流棟周辺と
並んで、最もにぎわ
いのある空間。

LDP. T-2(シンボル空間)
グランドコーナー部
のイメージ

LDP.T-2
メインストリート 周辺の整備イメージ



計画イメージは
パース的なもの
よりスケッチ等、
ラフな方が良い
ことも多い



2. 策定と運用のプロセスと体制

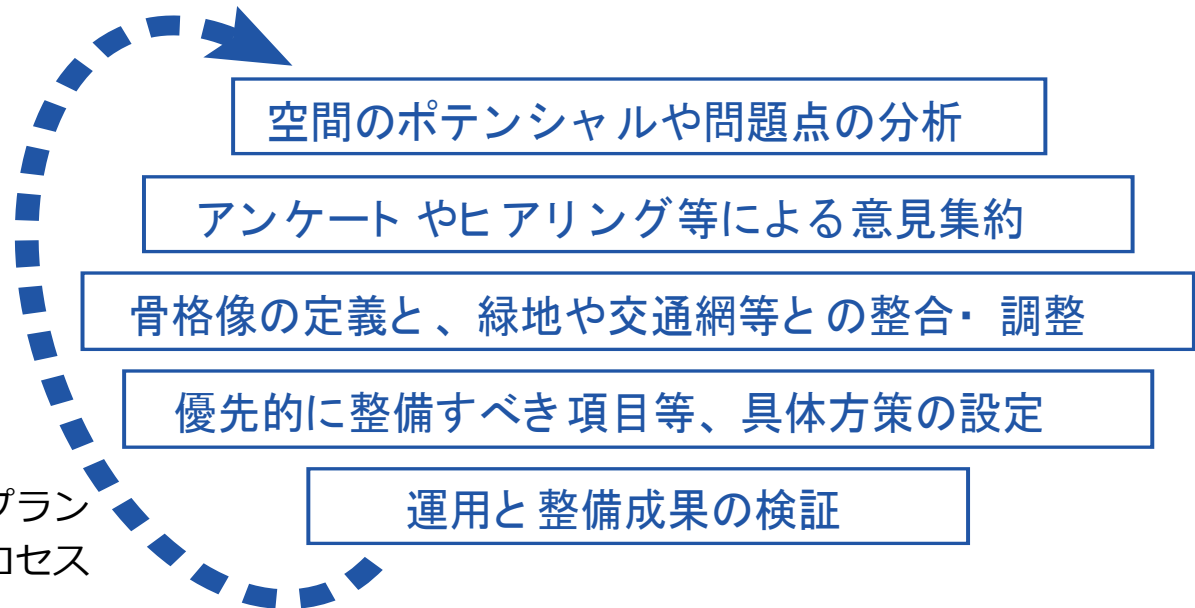
(1) 策定のプロセス

- H12年 施設長期計画委員会がキャンパス計画委員会に改称
- H15年 キャンパス環境整備計画・デザイン検討プロジェクト2
- H16年 法人化、施設マネジメント委員会発足
- H17年 キャンパスマスタープラン策定、キャンパスデザイン室発足
- H21年 「箕面キャンパスマスタープラン」策定
- H22年 「バリアフリーとサインのフレームワークプラン」策定
- H23年 「緑のフレームワークプラン」策定
- H24年 キャンパスマスタープラン部分改訂

キャンパスデザイン室とは
室長 : 施設マネジメント委員長
構成員 : 施設部長 +
(工)准教授1名、助教1名

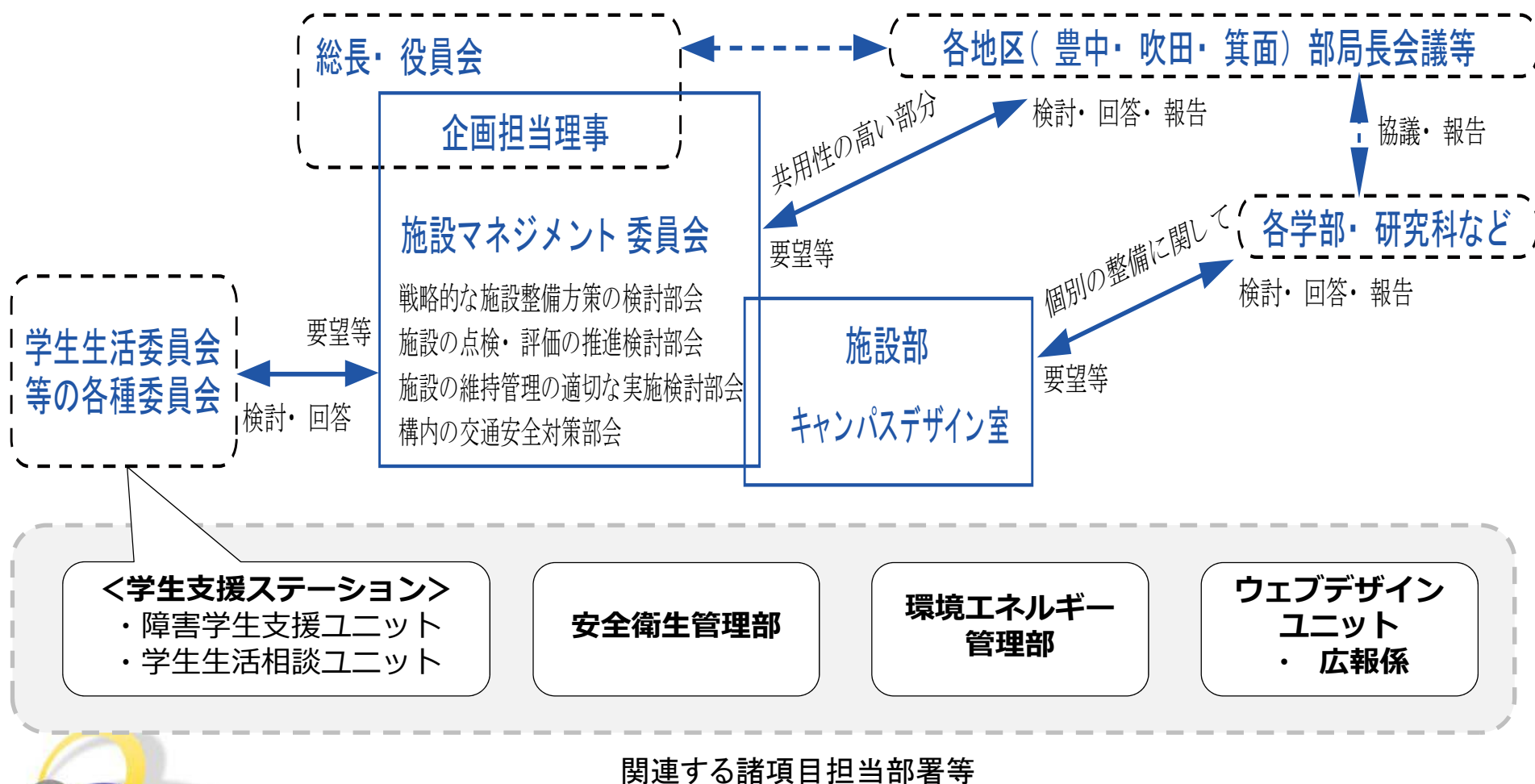


キャンパスマスタープラン
の策定・運用プロセス

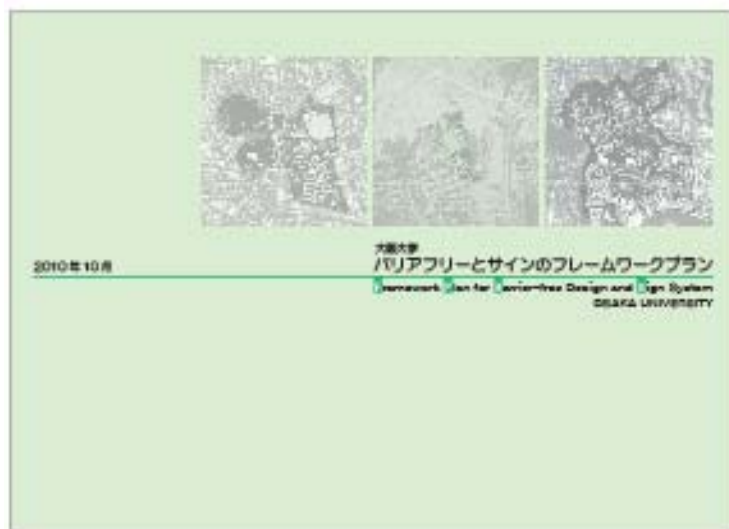


2. 策定と運用のプロセスと体制

(2) 運用の体制



3. 派生する様々な問題への対応



- (1) 交通環境（自動車、バス、キャンパス間移動、自転車、駐輪など）
- (2) バリアフリー、サイン、他 アクセシビリティ
- (3) 緑の維持管理とランドスケープ
- (4) 空間の基本性能（耐震等安全・安心、狭隘化対応、維持管理保全等）
- (5) 福利厚生や課外活動支援
- (6) 地域や社会と連携した取り組み

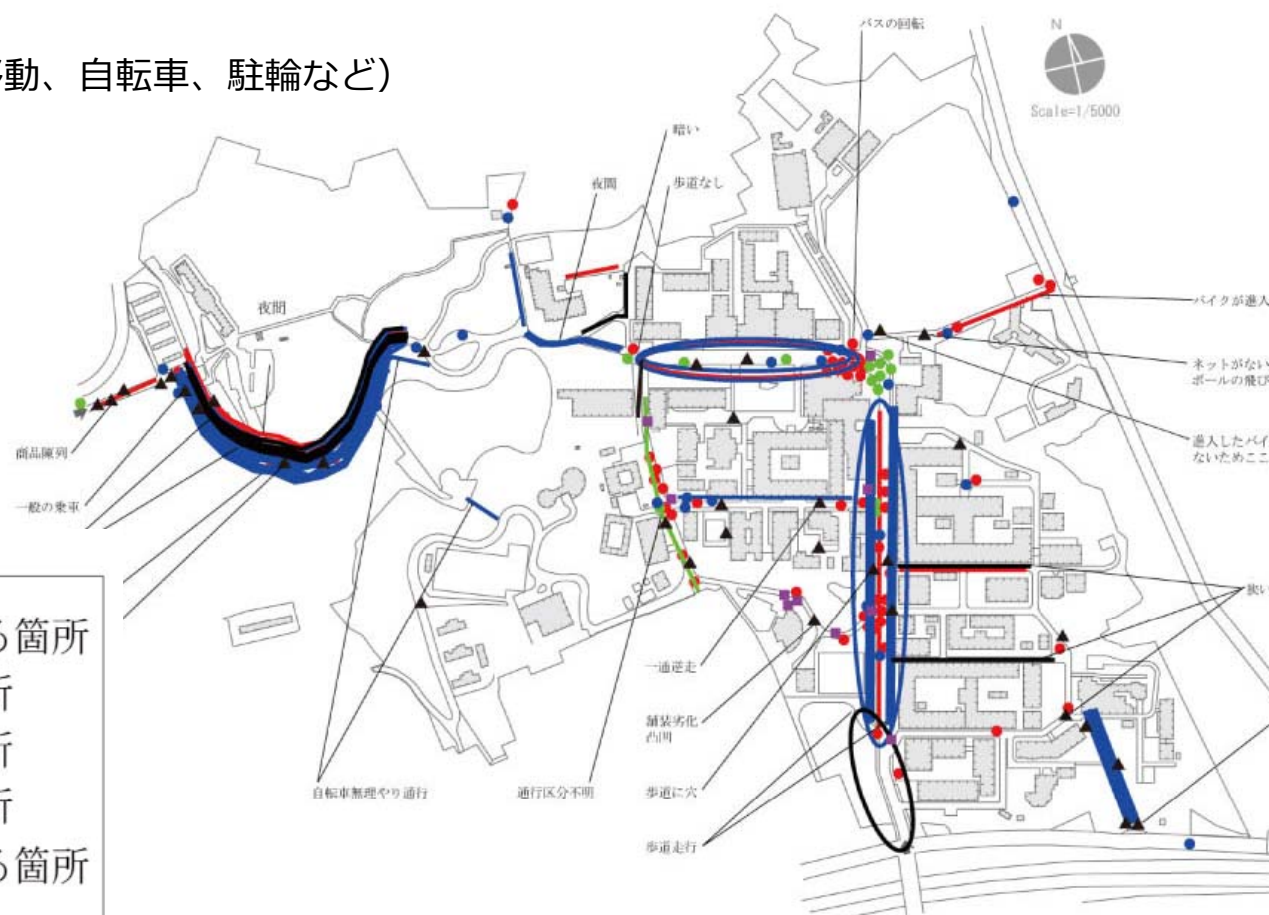
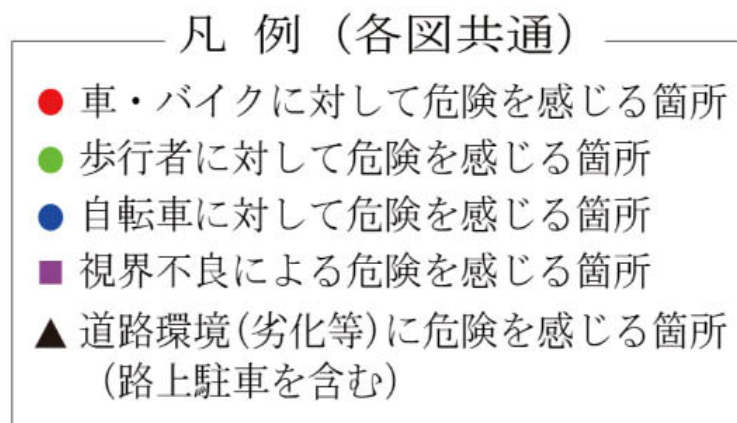


3.派生する諸問題への対応

(1) 交通環境

(自動車、バス、キャンパス間移動、自転車、駐輪など)

H22年キャンパス交通関係 アンケートの結果分析（豊中）



図a1. 歩行者の視点による危険箇所図（豊中）



・歩行者が危険を感じる対象は、

- ①自転車（25%）
- ②自動車（20%）
- ③舗装等の道路構成要素（17%）
- ④道路構成そのもの（13%）

・自動車が危険を感じる対象は、

- ①道路構成要素（37%）
- ②自動車（11%）
- ③自転車（15%）
- ④歩行者（9%）

3.派生する諸問題への対応 (1) 交通環境 ～ H22年キャンパス交通関係アンケートの結果分析 (豊中)

表. ホームページアンケートにおける自由記述の分類集計(数値は全て%, 回答数196、うち学生160、教職員36)

	賛成 または そう思う	条件付 または 消極的 賛成	反対	直接的 言及 なし	合計	賛否比 賛成 (条件付 を含む)	賛否比 反対	備考・摘要
(1)自転車有料登録制案(例示:年間1000円)	3.6	3.1	18.4	75.0	100.0	26.5	73.5	
うち学生	3.1	1.0	14.8	62.8	81.6	21.6	78.4	学生が反対強い
うち教職員	0.5	2.0	3.6	12.2	18.4	41.7	58.3	
(2)自転車入構禁止(集約駐輪場より内側)案	6.1	2.6	57.1	34.2	100.0	13.2	86.8	
うち学生	4.6	1.5	49.5	26.0	81.6	11.0	89.0	学生が反対強い
うち教職員	1.5	1.0	7.7	8.2	18.4	25.0	75.0	
(3)集約駐輪場建設	9.7	1.5	13.3	75.5	100.0	45.8	54.2	
うち学生	7.1	1.5	9.2	63.8	81.6	48.6	51.4	
うち教職員	2.6	0.0	4.1	11.7	18.4	38.5	61.5	教職員がやや反対強い
(4)バスロータリー建設(場所は別として)	24.5	2.0	7.7	65.8	100.0	77.6	22.4	
うち学生	18.9	2.0	7.7	53.1	81.6	73.2	26.8	
うち教職員	5.6	0.0	0.0	12.8	18.4	100.0	0.0	教職員は全て賛成
(5)バスRT場所A案(理学部前案)	19.9	2.6	12.8	64.8	100.0	63.8	36.2	
うち学生	16.8	1.5	10.7	52.6	81.6	63.2	36.8	
うち教職員	3.1	1.0	2.0	12.2	18.4	66.7	33.3	
(6)安全向上の意義を認める(案への賛否は別)	20.9	5.1	9.2	64.8	100.0	73.9	26.1	
(7)景観保全の意義を認める(案への賛否は別)	5.1	2.6	30.1	62.2	100.0	20.3	79.7	景観の意義は認められていない
(8)バスの危険性を認識している	16.3	1.0	5.6	77.0	100.0	75.6	24.4	
(9)自転車の危険性を認識している	12.2	1.5	10.2	76.0	100.0	57.4	42.6	多くが阪大坂について
(10)阪大坂の自転車通行規制について	0.5	0.0	9.7	89.8	100.0	5.0	95.0	根強い反対がある
(11)車両を規制するのが先決	14.3							
(12)分散した駐輪場が必要	7.1							
(13)自転車マナーの向上が必要	8.2							
(14)歩行者と自転車のレーン分離を計るべき	6.1							(14) 阪大坂では、仮に自転車レーンを設置すれば、自転車の速度が大幅に上がり、死亡事故発生が充分予測される。
(15)予算の有意義な使い道が他にある	5.6							
(16)放置自転車を撤去・違反者に罰則が必要	3.6							
(17)自転車入構規制は学外の交通問題に波及	2.6							
(18)阪大坂の仕上が劣化している	2.0							(18)は補修の予定あり
(19)必要な情報が不足・提示方法不適切	11.7							
(20)広報の姿勢がまずい(アンケート告知不足等)	8.7							

3.派生する諸問題への対応 (1) 交通環境
 ~ H22年キャンパス交通関係アンケートの結果分析 (豊中)

表. 自転車入構規制・有料登録制案に対する、ハガキアンケートとインターネットアンケートでの賛否比の比較

	ハガキアンケート※1				インターネットアンケート※1			
	属性	回答数 ※2	賛成比 ※3	反対比	属性	回答数	賛成比 ※3	反対比
自転車有料登録制案 (例示:年間1000円程度)	学生	17	35%	65%	学生	160	22%	78%
	教職員	122	55%	45%	教職員	36	42%	58%
自転車入構禁止案 (集約駐輪場に限定)	学生	17	18%	82%	学生	160	11%	89%
	教職員	118	60%	40%	教職員	36	25%	75%
備考	※1. 言及なしを除いて賛否比で計算した ※2. 教職員に偏っており、配布方法に問題があったと考えられる ※3. 条件付き賛成を含む							

3.派生する諸問題への対応 (1) 交通環境の分析、検討



図a. いままでの豊中キャンパスのバス停・ロータリー代替地検討

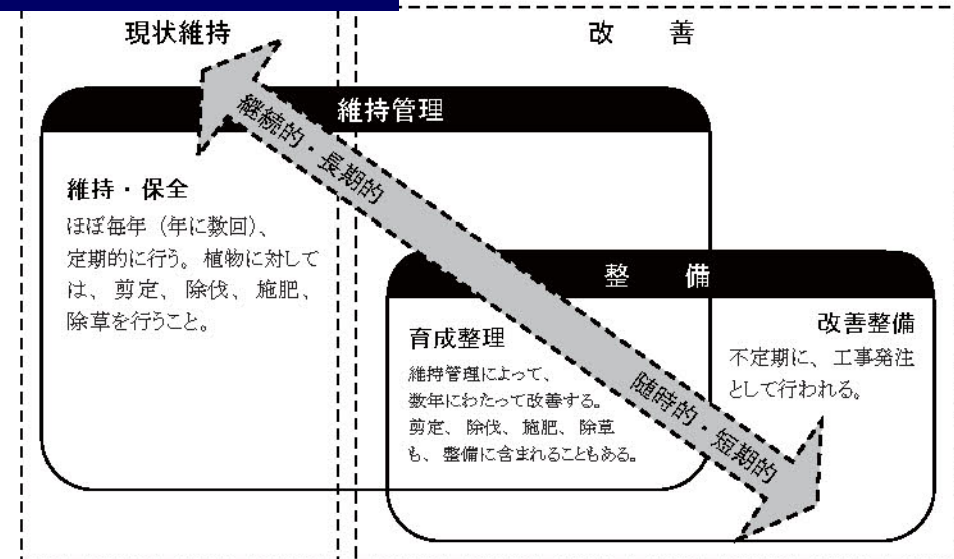
3.派生する諸問題への対応 ～ (3) 緑の維持管理とランドスケープ

緑のフレームワークプラン ダイジェスト(1)

キャンパスマスタープランの下位指針として、緑地および、広場や街路等の緑の、整備と維持管理の方針をまとめたものです。これによりキャンパス全体の緑地を、より美しく快適に、一体的、統一的な考え方のもとに、かつ継続的に、整備・維持管理することをめざしています。

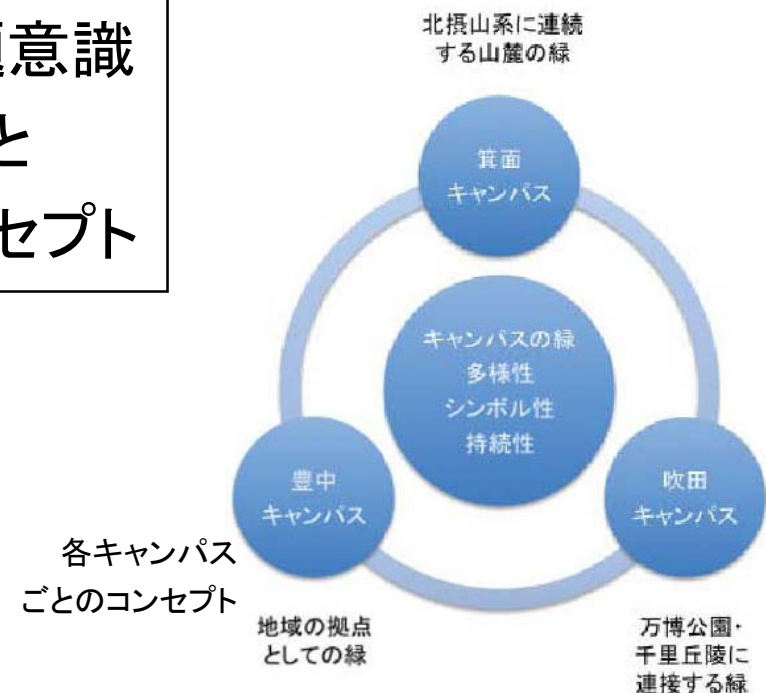


維持管理と整備の関係図



問題意識 と コンセプト

- ・ 北摂地域全体におけるキャンパス緑地の位置づけと守るべき各キャンパスの良い点を明示しています。
- ・ 維持管理（剪定や除草）から整備（工事）まで通した視点を設定しています。
- ・ 生物の多様性や希少種についても配慮していきます。
- ・ 周辺自治体や地元、学生教職員との連携を進めます。

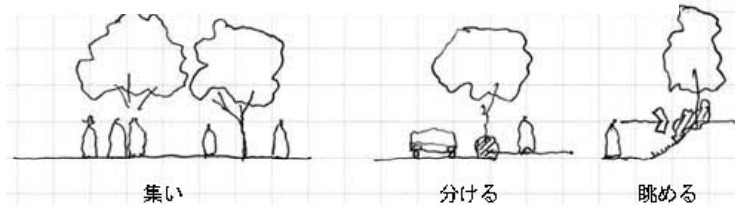


3.派生する諸問題への対応 ～ (3) 緑の維持管理とランドスケープ

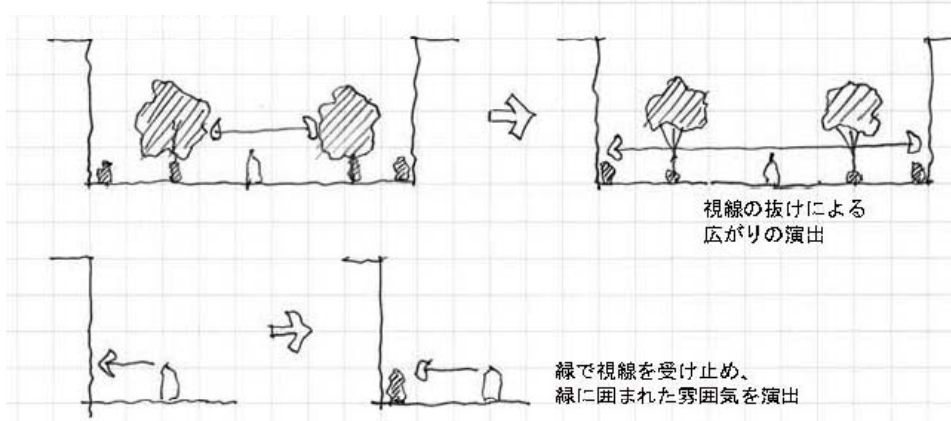
大阪大学 緑のフレームワークプラン ダイジェスト(3)

維持管理における剪定の種類と適切な管理頻度

空間の使われ方と緑のあり方の例



緑で空間を演出する例



緑のデザインガイドライン

- ・整備（工事）と維持管理（除草や剪定）についてのデザインガイドラインを示しています。
- ・広場系／街路系／庭園系／樹林・境界系に分けた管理レベルを設定しています。
- ・里山や竹林等の具体的な管理手法を提示しています。

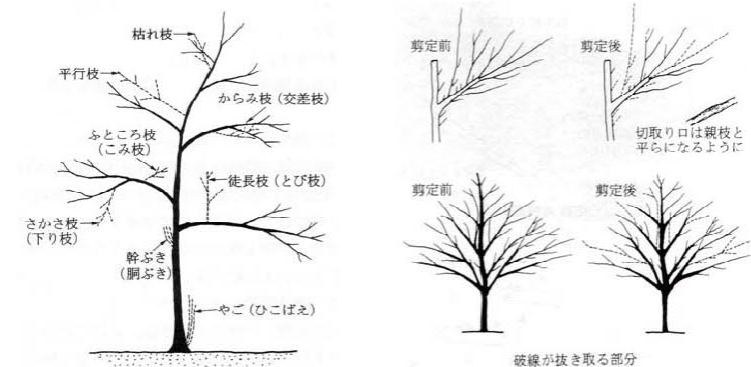


図3-3. 剪定が必要な枝

図3-4. 枝抜き剪定

表3-5. 緑地の植栽管理レベル（樹林・境界系）

管理レベル	管理方法	樹林	竹林	草地	備考
レベル3 人の利用が想定される保全系の緑地	剪定	2～3年に1回	年1回	—	
	倒木処理	2～3年に1回	年1回	—	
	下草刈り	年1回	年1回	年2回	
	ツル切り・清掃	年1回	年1回	年2回	
レベル2 人の利用する空間に隣接し、林床等の景観が重要となる緑地	剪定	4～5年に1回	2～3年に1回	—	
	倒木処理	4～5年に1回	2～3年に1回	—	
	下草刈り	年1回	年1回	年1回	
	ツル切り・清掃	2～3年に1回	2～3年に1回	年1回	
レベル1 キャンパスの背景等、遠景的な景観要素となる緑地	剪定	7～10年に1回	4～5年に1回	—	
	倒木処理	7～10年に1回	4～5年に1回	—	
	下草刈り	2～3年に1回	2～3年に1回	2年に1回	
	ツル切り・清掃	4～5年に1回	4～5年に1回	4～5年に1回	
その他		※目視検査を年1回実施			

3.派生する諸問題への対応 (6) 地域や社会と連携した取り組み

キャンパスアクションプラン

直接的な施設整備ではない種々の取り組みや活動によって、キャンパスの維持管理機能や、快適性および周辺環境などを適正に保つ一助とし、かつ、学生教職員や地域の皆様が積極的に関わることで、キャンパスに愛着をもっていただけることを目標としています。すべての構成員が当事者意識をもつことが重要です。

